

アラスカ便り



第6回（最終回）

フェアバンクス滞在中は車を持たず、移動手段は専ら市バスを利用していった。そのため、平日は滞在先のアパートメントと大学、Fred Meyer というスーパーマーケットの3箇所を移動することが殆どであり、稀にダウンタウンに足を運ぶことがある程度であった。市バスの運行本数が半減する土曜日や、休止する日曜日には出掛けることが余り無かった。折角のアラスカ滞在で勿体無い気もするが、異国の地で「日常」の生活を過ごせたことは良い経験になった。

2月中旬に、知り合いの方が日本から来られて1週間程度滞在されたこともあり、フェアバンクス以外のアラスカの街も訪れることとなった。アンカレッジへの2泊3日の行程で、うち1日はバローに日帰り滞在了。アンカレッジでは、クック入江のすぐそばに建つオバマ前大統領も訪れたというカフェでランチをしたり、アンカレッジ博物館でイヌピアックやアサバスカンといった先住民族に関する展示を見学したりした。1964年に起こったアラスカ地震(M9.2)に関するパネル展示や記録映画を観ることも出来た。アメリカ合衆国最北の街であるバローでは、タクシーにツアーをお願いして街中を巡った。北極海に浮かぶ海氷が間近に迫る光景には感動した(写真1)。昼食では、Osaka という日本料理店でうどんを食べた。アラスカ州最北の岬であるポイント・バロー(バロー岬)に向かい、この時期に車で行くことが出来る最北端まで到達した。近くのキャンプ場には、鯨のヒゲで模造した「ヤシの木」を見かけた(写真2)。暖かさへの切望の表れであろうか。その他、博物館や地元のスーパーマーケット、大学(Ilisagvik College)などを訪問し、充実した旅となった。

2月末は雪の日が続いたフェアバンクスは3月に入ると好天となり、綺麗なオーロラが観察出来た。オーロラは滞在中何度も目にすることが出来たが、3月1日に見たオーロラは形を激しく変えながら赤紫に輝く部分も現れ、これまで見た中で最も美しいものだった(写真3)。アラスカでの生活に名残惜しさを感じつつ、間も無く帰国の途に就く。

2017年3月5日

渡来 靖 (環境システム学科)



写真1： 北極海(チュクチ海)の海氷。
2017年2月17日撮影



写真2： ポイント・バロー近くのキャンプ場にあった「ヤシの木」。葉は鯨のヒゲで出来ている。2017年2月17日撮影



写真3： 2017年3月1日に撮影したオーロラ。この日は街灯の光る街中でも見ることが出来た